

カトリック 仙台教区報

2011年4月10日

発行
カトリック仙台司教区
980-0014 仙台市 葉区本町 1-2-12
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任 報員会
URL <http://sendai.catholic.jp/>

号外

大震災 支援・復興へ！祈りを込めて

4号線から、6号線・45号線へと運ぶのは？

仙台教区サポーターセンター長補佐 小松 史朗

その物語は3月11日午後2時46分あの地震が東北地方を大きく揺らすところから始まった。まるで子どもが地球儀を持ってぐるぐる回すかのような大きな揺れであった。次いで順次沿岸部の町々を大津波が呑み込む。風光明媚な三陸リアス式海岸は夕方には瓦礫の山と化した。あのきれいな海岸線が、早朝は活気に満ちた海と魚の港町、午後はゆったりと人の心を包み込む優しい海沿いの町が、ほんの数時間のうちに、人々とともに瓦礫と泥水の中に閉じ込められ、海に引きずり込まれた。たくさんの命が帰らぬ命へと変わった。さらに苦悩の物語は続く、福島県の沿岸部は原子力発電所の津波被害による放射能汚染。原発近くの町々では人々が他県へと避難し、避難できない弱者は放射能汚染に怯えながら、十分な物資も届かない自宅で息を潜めて生きている。未だ災害は終わらず、復興へと歩み始めることす

ら出来ない状況。そう、ここでは未だ災害自体が終わっていないのだ。たくさんの人が悲しみの果てに希望の光も見出せず、弱り果てている。そうなのだ。未だ、困っているには程遠く、



原町教会・いわき教会へ通じる6号線（松川浦付近）

喜びに包まれ、涙が止まらない。と同時にこの感動を我々だけでなく、6号線沿いの教会へ、そして45号線沿いの教会へと4号線沿いの教会からこのメッセージを届けたい。被災地の皆さんの後ろにはまだまだ元気な4号線沿いの教会がついている。そして我々4号線沿い教会の後ろには、日本の教会、世界中の教会がついているのだ。

仙台教区サポーターセンターが設立された。目的は被災地の復興のお手伝いである。元寺小路教会内に事務所を構え、ほんの数名のスタッフで始まった。ボランティアを募集し、ボランティアの送り先を行政から探し派遣する。塩釜教会をボランティアの受け入れ基地とし、次に石巻教会と広げて行った。今度は釜石教会に最前基地を設置する予定であり、いわきにはさいたま教区サポーターセンターからの救いの手が差し伸べられている。悲しみから始まった物語は、悲しみを引きずりながらも「共に生きよう！」との喜びを伝える新たな章へと進む。「わたしにも何か出来ることはありますか？」のこころは神さまのこころそのものである。

ただただ泣き弱っているのだ！

鳴りつ放しの電話のベルと共に物語は新たな展開を迎える。

「大丈夫ですか？」「何かしたいのですが？」「困っていることはありませんか？」「どの声も共に生きようとの心に満ちている。ありがとうございます！本当に心の底から

生命の泉

▼大震災の巨大な爪あとに唾然としながら復旧作業が進められている。本来なら桜の開花予想が話題になるところだが、季節は冬に逆戻りしたような寒さだ▼岩手県山田町船越小学校は標高13メートルの高台で避難所になっていた。55歳の用務員の田代さんは校長に「さらに4メートル高い山に逃げた方がよい」と進言して17名の児童の命が救われた。田代さんは生まれる前1933年の昭和三陸地震を経験した父親の教えを守った▼この災難から旧約聖書の記述を思い出した。イスラエル人は長い民族の歴史を書き留めてきた。救いの歴史として過去を風化させない生き方があった▼ソドム崩壊に際し神は言われた「命がけで逃れよ。後ろを振り返ってはいけない。低地のどこにもとどまるな。山へ逃げなさい。さもないと滅びることになる。」(創世記19・17)。かろうじてロト一族は難を免れたが、ロトの妻は死んだ。この災難の中で、彼女の死は我ごとくのように哀れだ。

自然界のエネルギーは想定をはるかに超える▼福島第1原発の事故は深刻だ。手に負えないエネルギーを利用して便利さと豊かさ享受してきた。こんな事故の後でも各地の原発は操業を止めない。原発はもの時に人の手に負えない事態が生じる。考えてみれば原子力ばかりか、自然界に異変があれば農業でも漁業でも壊滅的打撃を受け人類の生存は危うくなる。私たちはよく「恵みを祈るが、生きるためのすべでは恵みによるしかない。」(守)

「主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを司き離す」(1)とはどきどき

大震災・仙台教区内被災状況

3月11日(金)午後2時46分ごろ、宮城県で震度7の地震が発生した。マグニチュードは9.0。続いて東北地方沿岸に大津波が押し寄せ、甚大な被害をもたらした。さらに、福島県の原子力発電所の放射性物質の流出による2次災害も発生した。仙台教区内の教会・幼稚園・学校・諸施設における被害の実態が徐々に明らかになってきた。(3月25日現在)

【人的被害】死者8名・行方不明2名

●岩手県・幼稚園児1名行方不明

●宮城県・塩釜教会主任司祭アンドレ・ラシャペル師(発生直後塩釜教会へ帰る途中心臓発作により死亡)・信徒3名死亡・幼稚園児1名死亡・1名行方不明・家屋流失3家族。

●福島県・幼稚園児3名死亡。

【建物被害】

○青森県・小教区及び修道院諸施設(学校、幼稚園、施設)は、補修の必要があっても現在使用可能。

○岩手県・一関、千厩、水沢北上、花巻、盛岡3教会について



1階床上浸水した釜石教会(撮影・伊勢幸城さん)

ては、補修の必要があっても現在使用可能。一戸に関しては情報なし。

久慈教会は被害小、宮古教会・併設幼稚園共に被害小。釜石教会は1階が床上浸水。大船渡教会・併設幼稚園共に被害小。

○宮城県・仙塩8教会は、補修の必要があっても、現在使用可能。

仙台市内の修道院は、大阪聖ヨゼフ宣教修道女会で外壁が崩れ大規模な補修が必要。現在使用可。その他の修道院は補修の必要があっても、現在使用可能。

仙台北百合学園高校の体育館天井落下。レジナパースホテルも危険があり使用不能。

〈県北〉古川教会は聖堂使用不可。築館教会・併設幼稚園とも大丈夫。米川、大籠教会は情報未収集。気仙沼教会、石巻教会も併設幼稚園ともに補修の必要があっても、現在使用可能。なお、石巻カトリック幼稚園は被災者の避難所として使用されている。

〈県南〉亘理、大河原、白石、角田の各教会は被害小、補修



多賀城の被災地を視察する菊池司教(提供:カトリック新聞)

の必要があっても、現在使用可能。

亘理幼稚園、大河原、角田のカトリック幼稚園も建物は大丈夫。その他の諸施設に関しては、情報未収集。

○福島県・〈会津〉3教会は被害小、補修の必要があっても、現在使用可能。喜多方、田島のカトリック幼稚園も建物は大丈夫。

〈中通り〉福島市の2教会と、二本松、郡山、白河は補修の必要があっても、現在使用可能。須賀川教会は聖堂使用不可、教会敷地のような壁が崩れ大規模の補修必要。

〈浜通り〉いわき教会は補修の必要があっても、現在使用可能。湯元教会は使用不可の状態。原町教会は補修の必要あり。信徒の大部分が原発事故で自主避難。その他の諸施設は、情報未収集。

「仙台教区サポートセンター」

3月16日(水)、谷大二(さいたま教区)、菊地功(新潟教区)の両司教と、カリタスジャパンから成井大介神父(神言会)、事務局の稲江佐和子さんが来仙、平賀司教、小松史朗神父と会談し、大震災への対応のため「仙台教区サポートセンター」の立ち上げを協議した写真左。



同センターには、早速東京の真生会館学生センターから、23日(火)支援物資を満載したトラックで山内保憲神父(イエズス会)、杉野希都(のぞみ)さんが駆けつけた。

さらに、二人は、同センターの活動拠点のベースとなっている塩釜教会と石巻教会にセンタースタッフと共に向かい、塩釜石巻の現状を視察した。

今後、センターでは、この2ヶ所の他にもベースを増やし、ボランティアの活動拠点として行政とも連携しながら被災者の支援に当たる。

センター開設から30日まで、70名のボランティアが、活動に参加した。また、教区内外から避難シェルターの受け入れ申請が出が、修道会や個人から30件ほどあるとのこと。支援を希望する方は遠慮なく申し込んで欲しい。



事務局 ☎ 090-1217-3233
080-6003-8647
Mail sendaisec@gmail.com

アンドレ・ラシャペル神父 帰天 大地震の後、塩釜教会へ戻る途中心臓発作



塩釜教会主任司祭アンドレ・ラシャペル神父

路上に倒れているところを発見され、警察の検死の結果同日午前9時ごろ(推定)、心臓発作で死亡したことが確認された(76歳)。

師は、3月11日(金)、元寺小路教会で、聖霊刷新のスタッフとの会議中、大地震に遭遇。「や、地震つて怖いもんだ」と連発し、かなり怯えていたという。エメ神父は、少し休んで、気持ちを落ち着けてから帰った。引き留めたが、それを振り切つて車で塩釜教会に戻った。

3月12日(土)、父(ケベック外国宣教会)は、

遺体は、今回の大震災で死亡した人々の遺体安置所となつた、利府町の競技場「グランデイ21」に運ばれた。



夜を明かしたと思われる。翌朝、車を捨てて、徒歩で教会に戻る途中、心臓発作で倒れたと推測される。教会まで、あと1km弱の所だった。持っていたパスポートから、カナダ大使館に連絡が入り、カナダ本国に照会され、ケベック外国宣教会本部を経て、アジア管区長のエメ神父に連絡が入ったという。

うち、津波の危険もあつて、全く進めな

くならず、車の中でのことを話した。

ある信徒は「津波で亡くなった人たちの魂を、『天国はこっちだよ』と言つて、みんなを天国に案内してください」と、責任感の強い、生真面目な神父を偲んでいた。

通夜は、3月19日(土)、午後6時から、元寺小路教会でエメ神父司式で行われた写真。

高瀬 和夫神父 帰天



ヨゼフ高瀬和夫神父引退は、

3月28日(月)、午後3時45分、入院中の光ヶ丘स्पーマン病院で亡くなった(81歳)。

通夜は、3月31日(木)午後6時から、元寺小路教会で梅津明生神父の司式で行われた写真。

3月11日午後1時半から元寺小路教会で神父様と3人のスタッフは10月に行う予定の第34回聖霊刷新東北大会について話し合っていました。講師の神父様を検討している最中に地震が起きました。しばらくの間机の下にもぐり込んでおさまるのを待ちました。講師の神父様への連絡を神父様にお願ひし、それぞれ家に帰りました。翌々日一本杉教会で、ラシャペル神父様がお亡くなりになったことを知り、大友愛子さんと2人で抱き合つて泣きました。

3月15日通夜の後のお別れで柩の中の神父様に会いました。お顔はとても穏やかな表情をされていた。『疲れた者、重荷を負っている者は私のもとに來なさい。休ませてあげよう』のみ言葉どおりイエス様の御許にまっすぐ行かれたと信じています。

津波でご主人が家ごと流された大友さんは「私は主人が行方不明で心配だけど、ラシャペル神父様のことはショックだわ。今頃天国で神父様に会っているでしょう」と言っていました。

戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走り通し、信仰を守り抜いたラシャペル神父様！いろいろありがとうございます。いたらない私たちに忍耐し、今日までの導きを感謝いたします。(一本杉教会 淀川 芳子)

教会の存在を知らせようと、熱心に園長の役目を果たしていました。「まじめで、責任感が強く、頑固な一面、ユーモアもあつた。脳梗塞を患い、引退してから『司祭の家』に住み、週3回パルシアのデーサービスに行つていたが、司祭としての自覚をすっかりもつていた」と、鷹齋神父は語る。

高瀬 和夫神父 略歴

1929・10・14 誕生

1962・3・21 司祭叙階

1962~1963 築館教会助任司祭

1963~1966 元寺小路教会助任司祭

1966~1976 千厩教会主任・清心幼稚園長

1975~1976 気仙沼教会主任兼任・同幼稚園長

1976~2000 野辺地教会主任・同幼稚園長

2000~2002 野辺地・大湊教会主任兼任・野辺地幼稚園長

2002~2009 野辺地教会主任・同幼稚園長

2009・5 引退(司祭の家)



全国からのお見舞・励ましの声

町田雅昭様(東京シグニスジャパン)

今回の大きな地震と津波で多くの人が亡くなられたり怪我をされ、また、多くの家屋の倒壊・流出された様子をテレビで拝見しました。お見舞いを申し上げます。どんなに怖い思いをされたことか、皆さまのご無事をお祈り申し上げます。

Mr. 清水京子様(東京・女子パウロ会)

あまりにもひどい状態で、驚いています。東京でも、しやがみ込むほどの揺れでした。教会もたくさん被害にあり、または、津波で消滅している教会もあるでしょうね。災害にあったかたも数え切れないほどと思います。そして、まだ大きな余震がつづいていて、不安の中にお過ごしのことでしょう。お見舞い申し上げます。仙台教会のこれからの復旧のために、お祈りしております。

関口ひろみ様(東京教区 広報)

東京教区でも大司教様がメッセージを出し、昨日の四旬節第一主日のミサを犠牲者のために捧げるようにお伝えになられました。たくさん祈りや実際の支援がどうか届きますように…。

高橋和希様(大分教区)

かなり大きな地震が東北・関東を襲い驚いております。大分に

る私たちも今はミサと祈りを亡くなられた方々と被災された方々のために捧げています。また私の友達もスペイン、ブラジル、メキシコなどからも祈ってくれています。一人の友人は「全てを日本のために」と言ってくれました。

何か私もできることがあれば教えてください。もしボランティアのようなものがあれば、招集も引き続いて教会の共同体ともにお祈りしています。

湯口靖彦様(盛岡)

友人から元気が出る画像をもらいましたので送ります。友人の娘さんの知人がトレーナーをやっているイタリアサッカーチーム「Cesena」(以前、



ろだそうです。

讃井由季子様(フランス在住) 1972年から78年まで戸畑の明治学園に在学しておりました。シスター川田紀美子先生の教え子です。

サイトによる情報しか知ることができませんが、被害が少ない修道院を避難所としていらつしやることを読みました。私も昨日前様の幸せな暮らしをしています。ですが、心の中は日本でつらく、悲しい思いをしていらつしやる被災者の方々のことばかりです。今、もつとも必要とされているものは、何でしょうか。このメールがとどきましたら、ぜひ教えていただけますか。よろしく願いました。



川崎市鷺沼在住(川崎サレジオ教会近所) のものです。実家は一関市です。

「気仙沼教会」の外観は大丈夫なようです。一部電話が繋がりましたが、電気も復旧していないようです。

叔母の実家は、カトリックですが、道路事情も悪く、教会まで行ってはダメですが、津波の被害はなさそうだったとの事です。一族が全員助かりました。被災した方を思うと、今生きているも

のが、できることをしなければとの思いでいます。大船渡の神父様の安否を心配しております。

私の実家のある、千厩教会も多分、町自体被害が少ないようなので大丈夫かと思えます。こちらでは、信徒をはじめミッシヨンスクール出身者など力を合わせて、祈りを捧げておりますので、どうぞ良きお計らいがありがとうございます。

守田亮子様(京都教区 広報部)

被災されたすべの方とそのご家族の上に主の慈しみがありますように。

このたびの東日本大震災の被災地の状況をニュースや様々なメディアを通して見るたびに本当に心が痛みます。今は私たちが遠方におります者はお祈りと募金活動くらいしか出来ませんが、日々みんなが皆さまの悲しみと痛みが少しでも癒されますように、そして一日も早い復興をお祈りいたしております。

四旬節にこのような苦しみを訪れるとは…と思いつつ、きっと神様は皆さんがこの苦しみを乗り越えるための光を用意してくださると信じております。

被災地の子どもたちが避難所などで自分たちにも出来ること

《祈り》

をしたいとお年寄りのお世話や必要な情報を集めて公開したり、被災された方たちがわずかでも残っていた食べ物を持ちより皆で分け合っているらつしやる姿に希望の光を見ました。これから住む場所や仕事場までも奪われ大変な道のりを越えていらつしやるのでしよう、そしてご家族や友人を亡くされた方たちの消えることのない悲しみを思いますと心が潰れそうになります祈り続けてまいります。マリア様のとりにしにより私たちの祈りがどうぞ届きますように。

*写真は大阪教区からの寄せ書き

あわれみ深い神さま、あなたはどんな時にも私たちから離れることなく、喜びや悲しみを共にして下さいます。今回の大震災によって苦しむ人々のためにあなたの助けと励ましを与えて下さい。私たちもその人たちのために犠牲をささげ、祈り続けます。そして、一日も早く、安心して暮らせる日が来ますように。また、この震災で亡くなられたすべての人々があなたのもとで安らかに憩うことができすように。母であるマリアさま、どうか私たちのために祈りください。

日本カトリック司教協議会会長 大阪大司教 レオ池長 潤